

前回会議（令和 6 年 7 月 5 日実施）から現在までの動きと今後について

- 1 陳情について
市長公約であるペットボトル毎週回収について、別添のとおり陳情が提出された。
- 2 陳情への対応
令和 6 年 9 月 11 日実施の厚生委員会にて議論された後、取扱いが継続となった。次回は、11 月 13 日実施予定の厚生委員会にて再度議論される予定である。
- 3 令和 6 年 9 月 11 日実施の厚生委員会における小美濃市長のペットボトル毎週回収に関する発言
※以下は、議事録（不確定原稿：公表済）から該当部分を要約し整理したものである。

分類	内容
市民からの訴え	・実際に訴えをいただくことが多かった。 ・選挙期間中も、これについて頑張っていると相当な方から言われた。 ・私のところに多くの方から要望があり、市長への手紙もいただいた。
利便性とのバランス	・本件は、利便性と環境性能のバランスと認識している。 ・増えているペットボトルに対して隔週を続けるのは果たしてどうか。一方利便性を高めると CO2 が増えるが、うまく折り合いをつけるのが難しい話である。 ・瓶と缶は減っているがペットボトルは増えている。利便性とのバランスはどうなのか。 ・ペットボトルに関しては、伸び続けていることを考慮すると、サービスに少し重きをおいてもいいと思っている。
公約	・これは公約であり、守らなければならない。公約を掲げて当選したのであり、市民の皆様との約束である。 ・公約であるため、何としてもやり遂げたい。 ・一生懸命環境のことを考えていらっしゃる市民の方の意思も尊重するが、公約なので何とか折り合いをつけることができればいいと思っている。 ・公約であることに非常に強い思いがある。 ・14 万市民の命を守るということで当選させていただいた。これは生活を守ることにもつながる。 ・一定のプロセスを踏んでやらなければならないが、最終的には公約なのでやらせていただきたいというのが私の答えである。
啓発	・絶対量が多いためこのような話になっているが、ペットボトルを減らすことにはどんどん協力をしていきたい。 ・お店に戻すことやマイボトルも推奨していきたい。
その他	・ごみ施策は大きな意味の福祉であり、利便性ということを考えると、これは市民サービスの形にもなる。何も無いところからムーブスを走らせることも一つのサービスだった。利便性と環境性能は裏腹である。 ・環境について努力している方がいる一方、税金を払っているのだからもっといいサービスをしてくれという方もいる。そのバランスである。 ・執行権の範囲なので来年からやれと言ったらできない話ではないが、議論はしなければならないと思っている。